

財団法人8020推進財団  
平成20年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

1. 事業名 : 幼児への効果的な歯磨きの定着のための支援プログラムの検討

2. 申請者名 : 財団法人サンスター歯科保健振興財団  
(理事長 金田博夫)

3. 実施組織 : 財団法人サンスター歯科保健振興財団  
(協力団体) 摂津市立せつつ幼稚園  
高槻市立高槻幼稚園

4. 事業の概要 :

平成17年度歯科疾患実態調査によると、5～6歳児のう蝕有病者率は60.5～63.4%であり、これはWHOとFDIが策定した目標である「西暦2000年までに5～6歳児のう蝕有病者率を50%以下にする」にまだ到達していない。同調査によると、3歳児のそれが24.4%であることから、3歳から5、6歳の間にう蝕が急激に増加することになる。

サンスター歯科保健振興財団では、この年齢の幼児の多くが在籍する保育園(所)や幼稚園で特にう蝕予防を念頭に置いた集団歯科保健教育と指導を行ってきた。この年齢の幼児は、生涯にわたる生活習慣のスキルを習得していく時期にあたり、集団のなかで身につけるスキルとともに家庭の中、特に保護者の影響下で形成するものも多く、歯口清掃もその健康関連スキルの1つである。その意味では、必ずしも園での集団歯科指導のみでは十分ではなく、保護者による適切なスキル伝達とあわせて初めて効果的な歯口清掃行動の習得や習慣づけが期待でき、このことがひいては効果的なう蝕予防につながるものと思われる。

以上のような背景から、今回は、幼児に対して保護者がどのようにすれば歯口清掃スキルを効果的に伝えられるかを考える中で、その支援策の1つとして絵カードの活用について工夫し、実際に園児と保護者に介入した結果、この方法がきわめて有効であることを見出したので報告する。

5. 事業の内容:

園児に対して、口腔ブロックごとに歯ブラシを当てる絵カードを用いて歯科衛生士が歯口清掃指導を行い、保護者にも家庭で園児の歯口清掃に積極的に参加してもらうことにより、従来から行われている集団指導に比べ、園児の口腔清掃スキルと口腔清掃状態が改善されるかどうかを評価する。

6. 実施後の評価:

- ・絵カードを用いて歯磨き指導をした園児では、従来の紙芝居と顎模型を用いて指導した園児に比べ、習得スキルと歯の清潔の持続が認められた。
- ・絵カードを用いて歯磨き指導をした園児の保護者では、従来の紙芝居と顎模型を用いて指導した園児の保護者に比べ子供の歯磨きスキルの評価精度に向上が認められた。
- ・絵カードを用いた歯磨き指導法は、子供の歯磨きスキル向上と定着による効果的なプラークコントロールに有用である。
- ・指導後の保護者に対する事後のアンケート調査では、従来の集団指導により歯磨きが上達したと答えた者が62.9%に対し、絵カードによる指導では87.8%であった。